

『共に生きる』～書家 金澤翔子～映画上映会開催要綱

母娘で歩んだ涙と幸せの38年。

NHK大河ドラマ「平清盛」の題字を担当するなど、今や天才書家と呼ばれるようになった金澤翔子さんは、5歳から母・泰子さんを師として書道を始め、純粋な心で揮毫する彼女の“書”は数多くの人々を魅了してきました。彼女の代表作の一つである「風神雷神」は、京都の建仁寺で国宝・俵屋宗達の「風神雷神」の屏風に並んで書納められ、日本のみならず国連でのスピーチやニューヨークやプラハでの個展開催など世界的な活躍を見せています。

生まれてすぐにダウン症と診断された彼女に母である泰子さんがどう向き合ってきたのか、どうやって彼女の才能を開花させていったのか、金澤翔子さんが書家として一流の舞台まで上り詰めるまでにはいくつもの努力と挑戦、そして母・泰子さんの支えがあった。

映画ではそんな彼女たちの日々の活動に密着して金澤翔子さんと母・泰子さんが共に生み出す“書道”と彼女たちの幸せの形に迫ります。

監督：宮澤正明

出演：金澤翔子、金澤泰子、柳田泰山、宮田亮平、Nakajin(SEKAI NO OWARI)、吉田正道、玉井浩、中村是好、木宮行志、千住博

公式ホームページ：<https://shoko-movie.jp/#modal>

★上映会インフォメーション

日時 令和6年1月20日(土) ※会場各30分前

1回目：午前10時～開演

2回目：午後1時30分～開演

上映時間 79分

定員 各回 150名

場所 市総合保健福祉センター 3階 大会議室
〒289-1192 千葉県八街市八街ほ35-29

申込 令和5年12月1日(金)～定員になり次第締切
右記QRコード、メール、電話でお申込みください。

メール fukushi@yachimata-shakyo.or.jp

電話 043-443-0748

問い合わせ先

八街市社会福祉協議会

043-443-0748

参加
無料



天賦の才を二人三脚で開花させた書家金澤翔子と母、泰子
数々の苦難を乗り越え育まれた母娘の絆を描くドキュメンタリー映画

出演：金澤翔子 金澤泰子 柳田泰山 Nakajin(SEKAI NO OWARI) 吉田正道 玉井浩 中村是好 木宮行志 千住博

監督：宮澤正明

プロデュース：藤本 健太郎 脚本：小堀誠司 編集：松田 浩一

撮影：田中 裕太 照明：山崎 隆太 録音：山崎 隆太 美術：山崎 隆太

特別協力：イダルシア ファーマシューチカルズ ジャパン株式会社

後援：千葉県八街市 八街市社会福祉協議会 八街市障がい者団体連絡協議会 八街市社会福祉協議会

制作：イダルシア ファーマシューチカルズ ジャパン株式会社 制作費：約100万円

©2023 八街市社会福祉協議会 八街市障がい者団体連絡協議会

母娘で歩んだ涙と幸せの38年。

NHK大河ドラマ「平清盛」の題字を担当するなど、今や天才書家と呼ばれるようになった金澤翔子は、5歳から母・泰子を師として書道を始め、純粋な心で揮毫する彼女の「書」は数多くの人々を魅了してきた。

彼女の代表作の一つである「風神雷神」は、京都の建仁寺で国宝・俵屋宗達「風神雷神」の屏風に並んで書かれた。日本のみならず国連でのスピーチやニューヨークやブラハバでの個展開催など世界的な活躍を見せている。生まれてすぐにダウン症と診断された彼女に母である泰子がどう向き合ってきたのか、どうやって彼女の才能を開花させていったのか、金澤翔子が書家として一流の舞台まで上り詰めるまでにはいくつもの努力と挑戦、そして母・泰子の支えがあった。

映画ではそんな彼女たちの日々の活動に密着して金澤翔子と母・泰子が共に生み出す「書道」と彼女たちの幸せの形に迫る。



各界から 絶賛される という才能。



宮田亮平 元東京藝術大学学長



千住博 画家



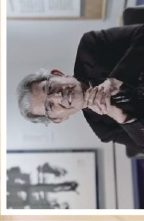
吉田正道 大本山建長寺 僧長



Nakajima (SEKAI) OWARU ミューシヤク



本宮行志 龍雲寺住職



柳田泰山 書家 柳田流四代目

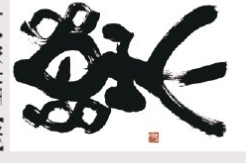
金澤翔子の書が持つ魅力。

【風神雷神】 金澤翔子筆

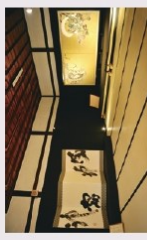


この「風神雷神」の真筆は京都の建仁寺に奉納され、国宝・俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」と並んで常設展示されている。天才絵師俵屋宗達の風神雷神と翔子の風神雷神がはるかな時空を経て巡り逢った奇跡の作品である。宗達の風神雷神図屏風を知らずして揮毫したその作品は見事なまでに模写が酷似しており「奇跡の風神雷神」と称されている。

【楽】 金澤翔子筆



制作時に母、泰子が家にあつたでんでん太鼓を使って漢字の持つ意味を伝えたことから、書にその印象が素直に反映され、金澤翔子の持つ感性の高さと、それを書に落とし込む天性の技術が色濃く反映された作品の一つ。



映画化に寄せて

翔子と私のことが映画になると聞いてびっくりしています。翔子はまわりにいる人に喜んでもらいたい一心で、書いてきました。そばにいる私自身が、一番翔子に喜びや驚きをもたらしてきたのかもしれない。

翔子の物語を観て、いろいろな方々が元氣や勇氣を感じてもらえたら嬉しいです。

金澤泰子